２　教育目標について

自立には「学びの自立」「生活習慣の自立」「社会的な自立」の三つがある。

学びの自立とは･･･学習の進め方を身につけ、自ら学習に取り組む態度を獲得することであり、自立の根っこを太く大きくすることにあたる。

生活習慣の自立とは･･･他に頼らず、身の回りのことを一人でできる分野を増やしていくことで、自立の根っこを何本にも増やすことにあたる。

社会的自立とは･･･精神的な自立である。自分を知り、自分の役割を知ることによって自尊感情を育て、自信をもって社会に貢献できる自己を獲得することで、自立の根っこを深く、しなやか（柔軟）で力強いものにすることにあたる。

このような「自立の根っこ」を育てるために、合言葉「チャレンジ＆スマイル」を掲げるとともに、「挑戦」「努力」「協力」のある教育活動を行い、結果として笑顔いっぱいの学校にする。成功の反対は失敗ではなく、「挑戦しないこと」と受け止め、挑戦して失敗からも学び、成長する子どもを育てていく。

そのための具体的なキーワードとして、

①　努力（一人一人が、粘り強く努力する。努力は一人でもできる。）
②　協力（一人ではできない協力のもと、互いを認め合う集団にする。）
③　多様性（個性を尊重する。一人一人にあった多様な指導法も考え、実践する。）
④　バランス（例；認め（褒め)、叱る。そのバランスが適切になるよう努める。）
⑤　寄り添う（児童、保護者、地域、教員に寄り添った学校にする。）

また、これらのキーワードを主に「おそわっこ運動」を通して児童にも意識させていく。

お・・・おおらかな　あいさつ　　そ・・・そっと　しんせつ
わ・・・わになって　あそぶ　　こ・・・こつこつ　まなぶ

〈 教 職 員 の 姿 勢 〉

○全教職員が、全児童の担任という意識で、児童理解に努める。
○校務・学級経営・授業実践に意欲的で、提案型の教職員をめざす。
○心身の健康に留意し、向上心をもって、研究と修養に努める。
○「心の居場所」と「絆」のある学校に・・・５つの努力事項

①　タイムリーにほめる、短く叱る。
②　違いを認め、助け合うことの大切さを実感させる（そだね～)。
③　学んだことを主体的に発揮する場を行事、学活、総合等だと児童にも意識させる。
④　チャレンジし、粘り強く努力することで達成感を味わわせる。
⑤　個性を尊重する（多様性)。

○一人の教員の適性や能力には限界がある。人間の力は１＋１＝２ではなく、３にも４にもなる。協力、人の和を大切にするとともに、学校内外にいる自分にはない専門的能力を持った人たちの力を借りることも必要だと考え、「チーム三室小」で協働する。